

長屋から始まる「コミュニティーシェア」

空家が増える中で、何を生かしていくのか。

ヨーロッパでは数百年前の建物がそのまま残り、その国の歴史や文化を今も伝えている。

今の日本では、個人の嗜好により様々なデザインの建物ができ、チグハグな街並みを生んでいる。

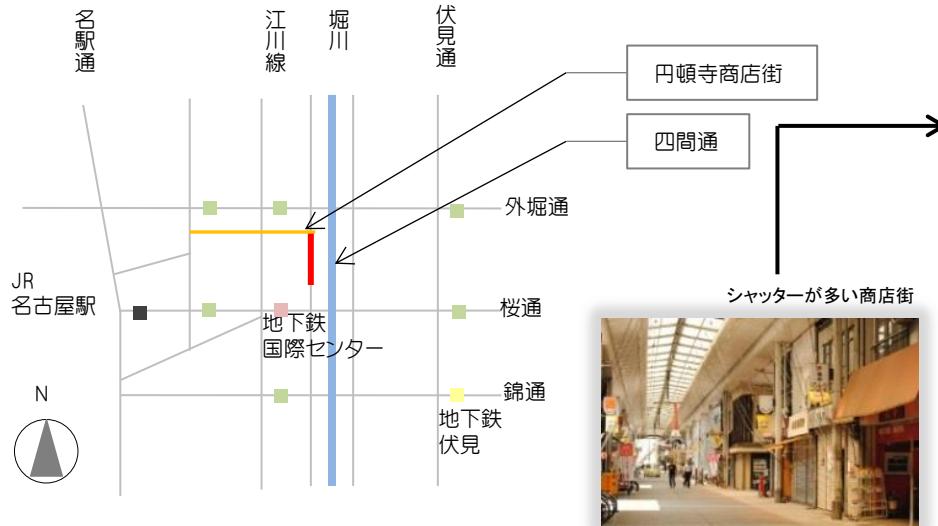
これから「生かしていく建物」「残していく建物」は、日本らしい木造の長屋や古民家であって欲しい。

高層のビルが建ち並ぶ名古屋駅から東へ約1kmにある「四間道」。

名古屋市の街並み保存地区にも指定され、蔵や長屋などが残っているエリア。

保存地区の西側にもまだ古い長屋があり、北側には商店街もある。しかし空家が増えてしまうと、駐車場やコンクリートのマンションになってしまいかねない。

今人気のシェアハウスのように長屋をシェアすることがら、町並みをきっかけにし「四間道コミュニティー」として町へ広げられないだろうか。



◇保存地区周辺の様子◇

- 保存地区の蔵
- 長屋や木造住宅が残る範囲
- 店舗として使われている範囲
- 駐車場
- 木造以外の建物

保存地区内の蔵



浅間神社より北側が保存地区



店舗として生かされている長屋



民家のすぐ横のパーキング



ポツンとなった民家



数件が空家となった長屋



◇一棟の長屋に複数世帯で暮らす「長屋シェア」

空家となった民家や長屋は取り壊されてしまう事になるであろう。そこで一軒の家を複数で住むシェアハウスのように、一棟の長屋を複数で住む「シェア長屋」という考えはできないだろうか。通り沿いはすべて修復。長屋に今住んでいる方はそのまま住み、空いている部分リノベーションをし、賃貸とする。賃貸部分へ単身者・家族世帯などの若い世代が、もともと暮らしている人々の中へ入っていく。点在する民家を生かしたコミュニティーと合わせ、「遠くの親戚より近くの他人」的関係が出来ることを願う。

◇あちらこちらに目立つ駐車場

商店街の北側に大きな駐車場がある。駐車場の機能を複数個所へ集約。長屋通りへの駐車場は最小限に。空いた空間は、新しいコミュニティーで必要となる、保育・医療・福祉機能を設ける。これ以上の駐車まばらなスペースが増えない事を望む。

◇品揃・業態に特化した商店街へ

ここは名古屋駅のすぐそば。ここもシャッターを閉めた店舗が多い。新しいもの、便利なものは名古屋駅や地下街へ出れば何でも手に入ってしまう。そこで、ここでは四間道コミュニティーに住む人の生活に必要なとされる商店街に。生鮮食料品・日用品と、飲食店を中心とする。近くにはオフィス街であるため、昼時にはランチ客も来なくなる店にしていく。名古屋らしくモーニングを売りにした店舗、高齢者の自宅への配食サービスや、「シェア民家」へケータリングもおこなう。

◇周りの民家が壊され、ポツンとしている家屋は開放

大人は読書や将棋をしたり、子供は宿題をしたり、ママは趣味のハンドメイドをし。高齢者や、子供、ママなど様々な世代の長屋住民が集まるコミュニティー空間へ。夏の暑い日は涼みに、寒い日は暖を取りにも人々が集まる。ここで高齢者がケータリングを取ればデイサービスに近い空間になるのでは。コンクリートの「施設」ではなく自立した人が集うシェア民家であれば、出かける意識が変わるはず。コミュニティー以外には、ギャラリー、店舗、貸しスペースとしても活用。

長屋をリノベーション

業態に特化した商店街

散らばる駐車場を整理。福祉拠点へ

点在する民家をコミュニティーへ